

特別支援教育に携わる教員の専門性向上のための テレビ会議システムを活用したオンサイト研修の検討（2）

—大学における専門講演の特別支援学校への配信—

平澤紀子*1・神野幸雄*1・池谷尚剛*2・坂本 裕*2
廣 寛*2・谷崎 毅*2・大井修三*3・冲中紀男*4

テレビ会議システムを活用した特別支援教育に携わる教員の専門性向上のためのオンサイト研修として、平成18年10月11日（木）18:30～20:00に、岐阜大学教育学部を会場とした特別支援教育にかかわる専門講演を岐阜県立特別支援学校6校に配信した。現職教員を対象として講座であるため、講座の受講者の双方向でつくる講座というスタンスをとり、受講者の課題解決のニーズを踏まえながら、専門的な情報や実践の知から、その解決への手立てが整理できるような展開であることが重要であることが確認された。同時に、遠隔会場において、情報を共有し、討論への参加をスムーズにするための事前準備や講座の進め方に関する課題が指摘された。

〈キーワード〉 特別支援教育，オンサイト研修，専門講演，テレビ会議システム，専門性向上

1. はじめに

特別支援教育に携わる教員の専門性向上のためのテレビ会議システムを活用したオンサイト研修について、第一報では特別支援学校と大学を結んでの研究授業の事前及び事後検討について検討を加えた（坂本・谷崎・三牧・池谷・廣寛・平澤・神野,2006）。第二報となる本稿では特別支援教育センターが平成16年度から、現職教員を対象として開催している「特別支援教育コーディネーター実践講座」（平澤・神野・池谷,2006; 平澤・神野・池谷・坂本・廣寛・谷崎・大井,2007）の一講座を特別支援学校に同時配信した研修会の実施状況を報告する。そして、テレビ会議システムによる専門講演の配信によるオンサイト研修について、受講者アンケートを基に、考慮点や課題点について整理し、今後の示唆を得ることを目的とする。

2. 運用例

(1) 特別支援教育コーディネーター実践講座の概要

本講座は、特別支援教育やコーディネーターの役

割遂行に関する受講者の課題を整理し、解決への手立てを見いだすことを目的として、岐阜大学や岐阜県教育委員会スタッフによる講義、全国的講師による講演、受講者の話題提供による演習から構成している。

平成18年度の講座は、66名の現職教員を対象として、表1のように年9回実施された（平澤ら,2007）。

(2) テレビ会議システムによる講座の配信

① 配信日・配信校・受講者

平成18年10月11日（木），18:30～20:00に、郡上養護学校，飛騨養護学校，大垣養護学校，恵那養護学校，東濃養護学校の5校を対象として実施し，47名が受講した。なお，大学でも同時に定期的受講者が受講し，6会場を中継した講座となった。

② 事前準備

各学校の管理職に講座の主旨を文書で依頼し，勤務時間後の受講について協力をいただいた。また，受講については，事前に参加申込を受けた。TV会議システムの設定については，各養護学校の研修担当者と大学担当者の技術的な打ち合わせを行った。

③ 講座の内容

*1 教育学部附属特別支援教育センター

*2 教育学部特別支援教育講座

*3 教育学部学校教育講座

*4 岐阜県立大垣特別支援学校

表1 平成18年度の特別支援教育コーディネーター実践講座

①	7/15 (土)	10:00-12:00	「講義：平成17年度の研究成果公開会（公開講座）」 助言者：岐阜県教育委員会特別支援教育課 課長補佐 安田和夫氏
②	7/15 (土)	13:00-14:00	「講義：特別支援教育コーディネーターの役割」 講師：岐阜県教育委員会特別支援教育課 課長補佐 安田和夫氏
③	9/21 (木)	16:00-17:30	「演習①：校内資源の活用と外部機関との連携」
④	10/11 (水)	18:30-20:00	「演習②：保護者との協力関係の形成」 ※
⑤	10/21 (土)	10:00-12:30	「講義：読み書き障害の理解と支援（公開講座）」 講師：岐阜大学教育学部助教授 廣瀨忍氏
⑥	12/2 (土)	13:00-15:00	「講演：特別支援教育を推進する具体的なアクションのために：行動分析的アプローチ（公開講座）」 講師：兵庫教育大学教授 藤田継道氏
⑦	1/25 (木)	16:00-17:30	「演習③：支援体制の継続に向けた引き継ぎ」
⑧	3/3 (土)	10:00-12:30	「講義：障害のある子どもの暮らしと子育ての支援(公開講座)」 講師：岐阜大学教育学部教授 富岡卓博氏 池谷尚剛氏
⑨	3/3 (土)	13:30-15:00	まとめ・修了式

※ TV 会議システムによる講座の配信

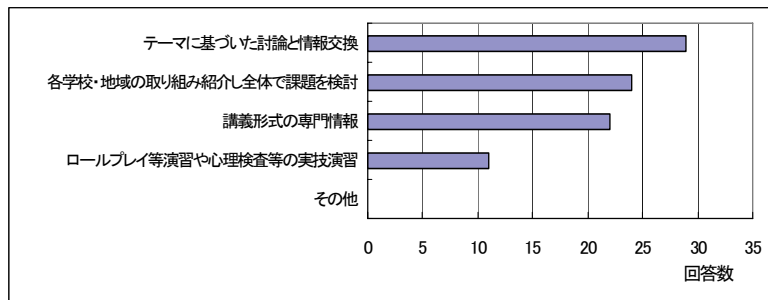


図1 TV会議システムによる講座に求める内容

表2のような内容で、「演習③：保護者との協力関係の形成」を配信した。

まず、大学スタッフから、本テーマに関する基本情報が提供された。次に、学校現場において、どのよ

うに保護者との協力関係を形成しているかについて、小学校と養護学校における実践が紹介された。それらの各会場をつないで情報交換をし、最後に課題のまとめを提示した。

表2 講座の内容

(1)基本情報の提示
・ 保護者との協力関係の形成にかかわる、保護者の障害の受容プロセス、保護者が支援者に求めるニーズ等に関する基本情報の提示
(2)学校現場における実践の紹介
・ 小学校における実践（揖斐郡大野町立北小学校教諭森永恵氏）
・ 養護学校における実践（岐阜県立中濃養護学校教諭栗本幸江氏）
(3)グループ討論
・ 教育実践を踏まえて、保護者との協力関係の形成において考慮すべきこと、課題となること
(4)情報交換
・ グループ討論結果の発表
(5)課題のまとめ

(3) 事後アンケート

テレビ会議システムを各学校で受講した遠隔の受講者に対して、講座修了後にアンケートを実施した。

① 講座に求める内容について

図1に、講座に求める内容についての回答結果を示した。

今回、実施したような「テーマに基づいた討論」が最も多く、次いで「各学校等の取り組みの紹介」、「講義形式の専門情報」が挙げられた。

② 講座の配信回数の希望について

図2に、講座の配信回数の希望についての回答結果を示した。

年3回が最も多く、次いで4、5回および12回と、

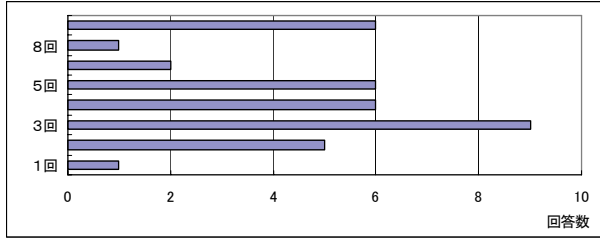


図2 TV会議システムによる講座の配信回数の希望

表3 技術面に関する意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声が聞き取りにくい ・ マイクの近づけすぎで音が割れる、大きすぎる ・ 衿マイクを使用してみるといい ・ 画像が見づらい ・ パワーポイントの文字がみにくい、小さい ・ 画像情報からテーマを共通認識しにくい ・ 切替がスムーズに行えるとよい ・ 受講者全員が操作に慣れるとよい
--

表4 講座の内容や進め方に関する意見

利点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校の抱えている問題を広い範囲で討論できることはよい ・ 他校の現状、課題、取り組みを知ることができてよかった ・ 意見交換はよかった ・ 具体的な事例提案は参考になった ・ 実例を聞く機会は勉強になる ・ 情報交換ができてよかった ・ 他校と画面交流するのも変化があつてよかった ・ すばらしいシステムである ・ 専門職の意見が聞けて有意義だった ・ コーディネーターの役割の大切さ、必要性を強く感じた ・ 遠隔地の為、このような研修はありがたい ・ 距離感を感じる事無く、遠隔で話せることに感動した ・ 移動することなく参加できたことはゆとりが持ててよかった ・ ワクワク、ドキドキの楽しい企画だった ・ より多くの先生の参加がよかった ・ 一般校にもテレビ会議システムがあればいいと思った
検討点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校でテーマについて話し合ってから受講がよい ・ 討論のテーマがはっきりしていなかった ・ グループ討議の時間が短かく、十分話し合えなかった ・ 内容が深まりにくい ・ 論点を絞ったほうがよかった ・ 発表は簡潔にすることが大事である ・ 各会場の発表を分析し、対応へのアドバイスがほしかった ・ 開始時間の変更はしてほしくない ・ 仕事後の研修は、学習意欲持続が精神的に大変となる ・ もっと専門的な話を聴きたい

単発ではない配信が希望された。

③ 技術面に関する意見

表3に、技術面に関する意見を示した。

音声や画像に関する問題、操作に関する問題が挙げられた。このことについて、単に技術面に不慣れであっただけでなく、大学から各学校への一方の配信でなく、各会場をつないで討論するような双方向の配信を実施したために、操作が複雑になった点もある。

④ 講座の内容や進め方に関する意見

表4に、講座の内容や進め方に関する意見を示した。

利点として、移動の手間やコストをかけずに、勤務校に居ながら専門情報を入手することができることや、他校との情報交換ができること等が挙げられた。

一方、検討点としては、主に内容の理解に関する事、グループ討論の進め方に関する事が挙げられた。勤務校での受講といったメリットを生かすためには、事前の準備がきわめて重要であると考えられる。

とくに、大学において定期的、継続的に講座に参加している受講者とは異なり、単発の講座に参加し、内容の理解を深めるためには、最低限の準備として、例えば、①当日の資料・討論のポイントを事前に配布しておく、②配信校におけるグループ討論の進め方に関する打ち合わせをしておく等が挙げられる。

同時に、講座全体の在り方から、講座の主催者は、こうした単発の配信の目的について、定期的、継続的な受講者とは異なるという側面を明らかにしておく必要があると考えられる。こうした点についても、受講者に提示しておく必要があるであろう。

3. おわりに

現職教員を対象として講座においては、受講者の課題解決のニーズを踏まえながら、専門的な情報や実践の知から、その解決への手立てが整理できることが重要と考えられる。そこで、本講座では、講座を主催する大学スタッフと、講座の受講者の双方向でつくる講座というスタンスを大切にしてきた。今回の試みにおいても、そうした講座の在り方が求められていることが確認された。同時に、遠隔会場において、情報を

共有し、討論への参加をスムーズにするための事前準備や講座の進め方に関する課題が明らかにされた。今後は、本検討を踏まえた改善を行い、よりよいオンライン研修について追究していきたい。

謝辞

テレビ会議システムによる「特別支援教育コーディネーター実践講座」の配信について、岐阜大学総合情報メディアセンターの加藤直樹教授、事務補佐員の上田康信氏には事前準備や技術面に関する協力を得ました。また、配信先の校長先生には、勤務時間外の受講についてご高配を賜りました。さらに、特別支援教育センター事務員の村山靖子氏には、アンケートの集約・整理にご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

文献

- ・平澤紀子・神野幸雄・池谷尚剛（2006）特別支援教育コーディネーター実践講座の取組み. 教師教育研究, 2, 84-90.
- ・平澤紀子・神野幸雄・池谷尚剛・坂本裕・廣瀨忍・谷崎毅・大井修三（2007）特別支援教育コーディネーターに関する教師の実践的な行動形成への支援ー特別支援教育コーディネーター実践講座3年目の取組からー. 教師教育研究, 3, 255-261.
- ・坂本裕・谷崎毅・三牧孝至・池谷尚剛・廣瀨忍・平澤紀子・神野幸雄（2006）特別支援教育に携わる教員の専門性向上のためのテレビ会議システムを活用したオンライン研修の検討(1). 岐阜大学カリキュラム開発研究, 24(1), 16-20.